

産官学連携による橋梁維持管理の取り組みが評価 土木学会 2025年度「インフラメンテナンス チャレンジ賞」を受賞 — 点検合理化によるコスト縮減と持続可能な橋梁管理体制を実現（高岡モデル） —

高岡市と国立大学法人横浜国立大学とNIX JAPAN株式会社（本社：富山県富山市、代表：市森友明、以下「NIX JAPAN」）は、このたび公益社団法人土木学会が主催する「インフラメンテナンス チャレンジ賞」を受賞しました。

受賞対象は、産官学連携により推進した「点検合理化によるコスト縮減および橋梁メンテナンス体制の強化（高岡モデル）」です。本取り組みは、橋梁点検の合理化によって品質を確保しながらコスト縮減を実現し、自治体主体による持続可能な維持管理体制の構築に寄与した点が評価されました。

■受賞対象事業の概要（高岡モデル）

1. 背景・課題

多くの自治体では、高度経済成長期に整備された橋梁の老朽化が進む一方、点検費用の増加や技術者不足により、修繕対策の推進が課題となっています。高岡市においても、点検費用の増大により修繕予算の確保が難しく、従来の事後保全型から予防保全型への転換が進みにくい状況にありました。また、自治体職員や地元企業における技術者不足や技術継承も課題となっていました。

2. 取り組み内容

これらの課題に対応するため、高岡市、横浜国立大学、NIX JAPAN は産官学共同研究を実施し、独自の橋梁定期点検ガイドライン「高岡モデル」を策定しました。

主な特徴は

- 点検の目的は変状の有無を確認することではなく、橋の耐荷性能、使用性能が求められる水準を有するかを確認することだ、と考えた「道路橋定期点検要領」（国土交通省 道路局，令和6年3月）の考え方を先取りしたことになる
- 性能が求められる水準に近いが、下回る原因となる変状を「重要変状」とし（右図）、点検対象変状をこれに絞った
- 記録の効率化や新技術の活用
- 自治体職員による直営点検の導入
- 地元企業や職員への講習実施

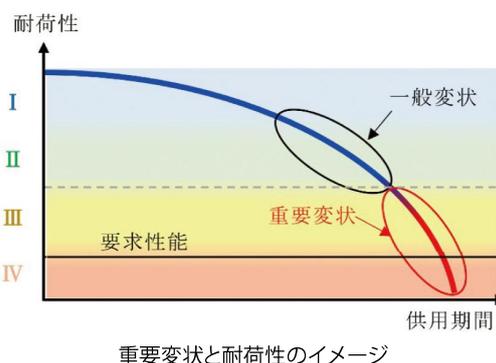
などにより、点検品質の確保と効率化の両立を図りました。

3. 成果・実績

本取り組みにより、橋梁点検業務の効率化が図られるとともに、点検費用の最適化を通じて修繕の推進に寄与しています。また、

- 自治体職員の技術力向上
- 地元企業の技術力向上と雇用維持
- 維持管理ノウハウの継承

といった効果も得られており、持続可能な橋梁メンテナンス体制の構築につながっています。



報道関係者各位

2026年2月26日
No2

■連携の意義

本取り組みは、自治体、大学、民間企業が連携することで、地域の実情に即した維持管理モデルを構築した事例です。地方自治体が主体的にインフラ管理を進める上での一つの参考事例として、今後の展開が期待されています。

■NiX JAPAN 株式会社の役割

NiX JAPAN は、本事業において橋梁維持管理に関する技術的検討やガイドライン策定支援などを担当しました。今後も、自治体との連携を通じて社会インフラの維持管理に関する技術的支援を進めてまいります。

■今後の展望

高岡市と NiX JAPAN は、本モデルのさらなる高度化を進めるとともに、

- 他インフラ分野への応用
- 新技術・DX 活用による高度化
- 全国自治体への展開支援

に取り組んでまいります。

また、橋梁構造の多様化に対応するため、PC 床版橋を対象とした点検・維持管理手法をガイドラインへ追加する検討も進めています。NiX JAPAN は、これらの取り組みを通じて持続可能なインフラ維持管理体制の確立に貢献してまいります。

■土木学会 インフラメンテナンス賞について

「土木学会 インフラメンテナンス賞」は、道路・橋梁・上下水道など社会インフラの維持管理分野において、優れた技術や仕組み、運用モデルを実装した取り組みを表彰する制度です。技術的な工夫だけでなく、実効性や継続性、社会的意義などが総合的に評価されます。